

採集方法

採集場所 本ホームページを作成している窪川研究室は、漁船をチャーターし、渥美半島沖の遠州灘で採集している。

熊本大学、広島大学、神戸大学の付属臨海実験所、九州大学津屋崎水産実験所ではナメクジウオの採集を行っている。いずれかの協力が得られれば、採集道具、採集方法、採集場所の心配をせずに、ナメクジウオを入手できる。採集できる数量は少数であるが、太平洋沿岸、瀬戸内海沿岸の臨海実験所、東京大学浜名湖水産実験所で採集実績がある。上に挙げたいずれの生息地でも、船を使う必要がある。採集する場所は、夏季の水温 20℃以上、水深 100m 以浅か干潟で流れが速く、粒径 0.3~1 mmほどの砂地の海底がよい。

用具 ドレッジ（細長いステンレス製の円筒、高さ 70 cm x 直径 30 cm）、ロープ、シヤックル、バット、ふるいなどの採集道具と工具、カップと長靴、ビニール袋、アイスボックス、など。

採集の実際 ナメクジウオがパッチ状に生息していること、および海底の堆積物がいつも同じではないので、魚群探知機で海底の様子を見ながら、採集場所を決定する。場所が決まったら、ロープを付けたドレッジに水中に落とし、5~10 分ほど曳航して船上に揚げる。次いで、ドレッジ中の砂を衣装ケースのような深いバットにあけ、ふるい（台所用ステンレス製ザルが手頃）を使ってナメクジウオだけをふるい分ける。夏季は冷媒で海水を冷やししながら作業する。ふるい分けで一緒に入ってしまうゴカイなどを除去し、水の汚れをなるべく防ぐ。採集した試料を持ち帰るため、海水 2 リットルと 50~80 匹を小さなビニール袋に入れ、アイスボックスに入れる。